

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491100071		
法人名	社会福祉法人明峰会		
事業所名	グループホームオハナ		
所在地	大分県宇佐市大字四日市4452-1		
自己評価作成日	平成28年2月17日	評価結果市町村受理日	平成28年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list&list=true&PrefCd=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	平成28年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高台の閑静な住宅地に位置する当事業所は、緑豊かな自然に恵まれ、四季折々を感じていただける環境にあります。日中の活動としては、昨年同様に地域交流会を開催し、地域のお子様たちを中心にそうめん流しを行いました。ほかには、カラーセラピストの訪問で、新しくコラージュ体験などをして頂いています。また、平成28年度から学習療法の取り組みを予定しており、現在、準備段階です。認知症の進行予防とともに、ご利用者様一人ひとりの可能性を引き出されればと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市郊外の住宅地に位置する木造平屋造り2ユニットの施設で、両ユニットが事務室を介して繋がっています。外出する利用者を常に見守れる配慮をしているのが特徴と言えます。「我が家と呼びたくなる暖かな空間」を目指し、利用者、家族の意向、状況の把握と尊重に基づき、穏やかに暮らせる支援を行っています。職員のモチベーションも高く、現状と課題を分析しながらケアの質の向上と、専門性を高めるための研修等、スキルアップへ邁進しています。「和、笑、輪」を理念の柱とし、管理者と職員はチームワークと信頼関係で利用者一人ひとりの目線に立って、笑顔と気配りで介護サービスを提供する姿は、家族の深い信頼に結びついています。また、隣接するケアハウスと協力し、地域交流を行う中で地域との相互関係を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の際、法人理念・事業所理念を唱和し、また年間目標をホールに掲示することで、日々のケアの中で意識付けができる様にしている。職員間で意見の相違があった時などは、理念や目標に立ち返り話し合うように心がけている。	事業所理念「和、笑、輪」とともに、年間目標をホールに大きく掲示し、朝礼で唱和することで、理念の共有に繋げており、チームケアの実践へと結びつけています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントやお祭りに参加している。連携する事業所の盆踊りや毎週行われている健康体操に参加。今年も昨年同様に地域交流会を開催し、地域の皆様とそうめん流し等を行い交流を図ることができた。	地域との相互の行事参加等を通じて、交流を積み重ねています。法人内で行われる「健康体操」に地域の方も参加し、利用者の楽しみの機会となっています。地区の清掃日に、利用者の参加が難しい現状、職員が地域の一員として協力しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年同様に地域交流会を開催し、沢山の参加があった。その際、認知症の話をお子様向けに行った。例年通り、地域の清掃デーの参加は継続出来ているが、参加できるご利用者様は限られている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご利用者様やご家族様にも参加して頂き、事業所の取り組みや事故報告等を行っている。その際、意見やアドバイスを頂いている。広報誌「オハナ日記」は、年6回発行し日常の様子を伝えている。	毎回2ヶ月間の行事報告や利用者の現状等を説明の他、テーマを設けて話し合い、活発な意見交換がケアサービスの反映ばかりでなく、行政と委員との橋渡しになる役目を担い、雑談の中から提案等を見出ししています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課の担当者には、運営推進会議に参加して頂いている。また、何か分からない点については、随時、介護保険課の担当者に尋ね、アドバイスを頂いている。	運営推進会議には、毎回出席があり、情報交換及び相談やアドバイスを頂いています。介護保険の申請等も含めて相談等で訪問し、担当者との連携と協力関係を築いています。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していないが、夜間帯は防犯上施錠をしている。職員に身体拘束や高齢者虐待防止などの研修へ参加してもらい、研修報告書を提出し他職員へ伝達している。また、何かあれば、それが身体拘束に当たらないのか？など職員間で話し合うように心がけている。	職員は身体拘束及び虐待の内容と弊害、防止について内・外研修会で学習し、認識を深めています。事業所の会議で「拘束と虐待」をテーマに取り上げ、職員の意識強化に繋がっています。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員ではないが、身体拘束や高齢者虐待防止関連法の研修に参加してもらい、報告書の提出にて他職員へ伝達している。対応の方法等に迷うことがあれば、職員間で話し合えるように心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の勉強会は出来ておらず、具体的な内容を把握するに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間をかけて説明を行っている。また、不安や疑問点があれば、その都度それに対して丁寧に説明する様に心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、意見が入ったことはない。ホールに苦情サービス委員会の案内や第三者委員の掲示をしている。ご家族様が来所された時、意見や要望を伺う様に努めている。	利用者の意見は、会話、言動、表情から推察しており、家族と運営推進会議、面会、電話等で意見、要望を把握しています。また、利用者個々のスクラップ帳を作成し、面会時に話題にすることで意見を出しやすい配慮をしています。	家族会の開催に向けた計画もあり、家族の遠慮のない意見や要望を収集する機会として大いに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時に、職員の意見や提案を聞くように心がけている。また職員会議で一人ひとりの職員の意見を聞き、ご利用者様への対応方法などを話し合っている。	管理者は、日々職員とのコミュニケーションを図り、ミーティング時に意見や提案を収集し、法人の管理者会議で検討しています。又、職員の相談に応じたり、適時のアドバイス等により、職員との距離感を大切に働きやすい環境を築いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の水準や労働時間は、法人の定める基準によって実施しており、職員の努力の姿勢や実績はきめ細かく評価をするようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、認知症介護実践者リーダー研修に1名参加した。また、必要と思われる研修には、随時参加出来るように配慮している。日常の場面で何か気が付いた時は、出来るだけOJTを行うことを心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者リーダー研修に参加することで、実習生の受け入れを行った。今後、他施設交流を検討している。また、研修会に参加した際には、情報交換を行い、今後のサービスに向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、しっかりと聞き取りを行い、ご本人様を深く理解できるように心がけている。特に、初期には、コミュニケーションをしっかりと取り、話しを傾聴し、信頼関係を築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様と話し合いの場を設け、要望等を伺っている。また、ご本人様ご家族様と馴染みの関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの暮らしの様子を伺い、どのような支援が必要であるのか、理解に努めている。また、入所前に担当していたケアマネより、情報提供を受け、必要としている支援の見極めに努めている。医療やその他のサービスを検討することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様本位の目標を常に心がけて、今出来ることの支援を行っている。料理や洗濯など出来ることを職員と一緒にを行い、感謝の言葉を伝えている。またそれぞれに役割作りが出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や外出等がある時は、ご家族様へ連絡を行い、一緒に過ごす機会を作れるように努めている。ご家族様の来所時、広報誌「オハナ日記」をお渡し普段の様子が伺える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人内のケアハウスより、知人が遊びに見え、趣味の俳句を詠んだり、歌を歌って過ごされることがある。また、入所前に所属していた地区の敬老会の方の訪問があり、懐かしそうに過ごされる場面もある。美容院などは、いつも同じ所を利用している。	本人がこれまで培ってきた人、場所を家族等から把握し、馴染みの美容室の利用を家族の協力で継続しています。ドライブの場所決めでは、利用者の馴染みの場所を候補に挙げ計画に入れるよう心掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者様同士、話をしたり、料理や洗濯などをして過ごされている。トラブルが起きることもあるが、その都度職員が中に入り場面転換を図っている。中には、皆さんの輪の中に入ることを好まないご利用者様もいる。その際は、無理強いせず個別に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、病院に入院中もお見舞いに行き、ご本人様ご家族様との関係維持に努めている。また、お亡くなりになった場合もお参りに行くことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、ご本人様の要望を随時聞くように心がけている。しかし、思いや意向の表出が困難なご利用者様は、ご家族様との話し合いの場を持ったり、または身体的な危険が考えられる時は、職員側の思いとなってしまうことがある。しかし、ご本人様の意向に添えるように配慮している。	職員は利用者と共に良く会話を交わし、その中から思い(本音)等を把握しています。帰宅願望の利用者には、その思いを汲み取り、家族に相談し一緒に出かける等、個々の思いに寄り添い、ケアに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に十分な聞き取りが出来るように努めている。また、入所前の担当ケアマネへ情報提供を依頼するが、いざ入所されると十分なアセスメントが取れていないことが多いと感じる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や健康管理表などを活用し、職員間の情報の共有が出来るように努めている。また、その記録から、ケアプラン見直し作成や定期往診・定期受診へつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様より、随時要望を聞き、それに沿ったケアプランの作成に努めており、居室担当者からの意見も反映する様に努めている。	3ヶ月に1度のモニタリングでは、担当職員を中心に家族や他職員の意見を出し合って、その人にとって一番いいと思われるケアプラン作成に力を入れています。情報は職員全体で共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の出来事、ご本人様が言った言葉等を記録に残し、課題等あれば会議などで話し合い、情報の共有に努めている。帰宅欲求が強かったご利用者様が毎日散歩に出ることを日課にしてから落ち着いてきたケースもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歩行器や車椅子を常時使用するご利用者様には、その購入やレンタルの手続きなどを行っている。またカラーセラピストの訪問で、コラージュ体験などもして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昼夕食は、法人内の厨房より提供して頂いているが、その他必要な食材は、地元の商店より購入している。また、お米は法人内の安心家族より購入。初詣やお花見などの季節の行事も地域へ出向けるように配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設見学時や契約時に、主治医やかかりつけ医を確認し、ご利用者様やご家族様の意向に添えるように努めている。また往診や受診時には、主治医へ状態報告を行っている。緊急時などは医療機関と連携をとり指示を仰いでいる。	利用者、家族の意向を大切に、希望するかかりつけ医、主治医となっています。4週に1回主治医の往診があり状態の報告を行っています。緊急受診の場合にも、逐一家族に報告して、情報の共有が図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子を観察し、気になることがあれば看護師に報告を行い、適切な処置やアドバイスを受けている。スムーズに往診や受診に繋がるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中退院前など、ご家族様や医療機関と連携を図れるようにしている。また、ムンテラにも参加し、状態把握を行い、ケアの続行に努めている。普段も体調などに不安がある場合は、病院の地域医療連携室へ相談をするなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けての話し合いが、ご家族様、主治医、施設で行われたケースが1件ある。また、重度化や終末期に向けて、ご家族様の意向を確認段階である。	重度化や終末期に向け、家族の意向を確認中です。重度化した場合は、病院や法人の他の施設へ移って頂いているのが現状です。	基本となるマニュアルを作成して、勉強会や研修会に参加する機会を持つ事により職員の意識向上に繋がると思われます。本人、家族の意向を踏まえ、施設の方針を随時説明される事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修参加、職員会議などにより勉強、話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	引き続き、火災避難訓練を毎月実施している。また、運営推進会議の際、出席者に訓練の様子を見学して頂いたことがある。今年、防火管理者が変更となり、取り組みの際疑問点や問題点を検討している。	火災訓練は毎月実施し、年2回の消防署立ち合いの避難訓練も随時行われています。夜間想定避難訓練は、3月に行う予定です。声かけにより、回を重ねるごとに連携は取れてきています。運営推進会議を通じて地域の方がたの参加を呼びかけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格尊重と誇りやプライバシーを損ねない声掛け、対応を心がけている。ご本人様の出来ることを引き出せるように努めている。また、不安そうな表情などが見られた場合は、さり気なく場面転換を図る様に心がけている。	利用者の人格の尊重を基本原則に考え、利用者の気持ちを大切にさりげない援助を心がけています。自己決定しやすい言葉かけを個別対応で実践しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行により自己表出、自己決定が困難となってきたご利用者様もいる。今後も出来るだけご本人様の気持ちを汲み取る支援を行う。まだまだ、日常生活の中で自己決定を促せる場面はあると思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご利用者様の意向に添えるように心がけているが、入浴やレクの時間は、行事などがある場合は、希望に添えないことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室やご家族様対応で行きつけの美容室に行かれ、パーマやカラーをされる利用者様もいる。また、職員とともに近くの美容室に出向く場合もある。口紅や頬紅を差しおしゃれを楽しまれる方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼夕食は、法人内の厨房より食事を提供してもらっているが、月に2回事業所で調理をする機会がある。その際は、ご利用者様の意向を取り入れている。また、お正月のおせち料理やクリスマス会のケーキを手作りしている。	昼・夕食は法人内より食事の提供がされています。月2回は、利用者の意向を伺い、事業所内で調理しています。行事食は特に喜ばれ、一緒に調理、食事、片付けと楽しみな一時となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアハウスの栄養士がカロリー計算した献立で三食提供している。食事量、水分量、栄養バランスとご利用者様一人ひとりの状態に応じて摂取、チェック管理している。また、今年度は国の事業で、管理栄養士の介入があり、アドバイスを頂いた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。必ず職員が側に付き、見守り確認をする。歯磨きを拒否される方もいるが職員が何度か声掛けを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	強制はしないが、早めの声掛けを心がけている。夜間、移動に時間が掛かり、トイレに間に合わないご利用者様には、居室にPTイレを設置するなどしている。	一人ひとりの排泄パターンにより、早めの声掛けを行い、トイレでの排泄支援が行われています。夜間は、利用者の状態によりPTイレを使用している場合があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使用しており、おやつに牛乳やヨーグルトなどを取り入れている。下剤を使用している方もいるが、排便状態を見ながら調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後から、入浴を実施している。しかし、行事などがある場合は、午前中になることもある。	入浴は、一日おきの方、二日おきの方等好みを伺って個別の支援を行っています。拒否される場合は、仲良しの方と一緒に頂いたり、声かけを工夫して一人ひとりの意向を大切にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居室で休まれる場合は、夜間の睡眠の妨げにならない様に、一定の時間で声掛けを行っている。また、高齢の方や体力の落ちた方などは、午前午後ともに居室にて休息を取って頂いている。室温や明かりを配慮し、安心して休めるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は、個人のケースファイルに綴じており、いつでも見れる様にし、緊急時にはそれを持ち出し易い様にしている。また、内服薬の変更等あれば、業務日誌に記載し、共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや楽しみごとを知り、それぞれに役割を持って頂ける様にしている。28年度より学習療法の取り組みを開始予定であり、現在準備段階である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出(花見など)を計画しているが、全員での参加は行っていない。近くの観音様までお参りに行くことが習慣になっている方もおり、職員がそと後から付いて行き見守りを実施するケースもある。	季節に応じた全員での外出は困難な状態ですが、個々の利用者の希望する馴染みの店、観音様へのお参り、ホーム周辺の散歩等が行われています。一日一回は外気を吸って気分転換ができるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様はお金の管理はしていない。中には、本人にお金を持たせないでほしいと希望されるご家族様もいる。外出の際に、個別に財布を準備しても実際にやり取りが出来る方は限られている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昨年までは、年賀状が届いても折り返し返信するまでに至っていなかったが、今年は全ご利用者様がご家族様宛に年賀状を出すことが出来た。中には、書けない方もいる為、職員が代筆を行った。ご自分の携帯電話を所持しているかたがいるが、自らそれを使う方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調整、換気などを行い、その時に応じた音楽を流し必要以上の音量にならない様、居心地の良い環境を提供できるように努めている。そして、毎日の行事に合わせての壁画作りもしている。また、冬場などインフルエンザ流行時期には、特に注意して換気を行う。季節の花などをテーブルに飾ることもある。	室温や換気に配慮し、フロアには利用者の壁画作品が飾られ、訪問者からおほめの言葉を頂いています。利用者は、自分の居場所ですっきりと過ごされています。玄関は常に開く状態で開放感に溢れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファで気の合うもの同士、話をしながら過ごされる。また、居室で横になりテレビを見て過ごすことを好む方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、ご本人様の使い慣れたものを持って来てもらうようにご家族様に話している。使い慣れたタンスや枕などを持ってこられる方もいる。今までは、全員同じお茶碗、湯のみ、箸であったが、個別に揃えている段階である。	使い慣れたタンス、ラジオ、鏡、枕等なじみのものを使用しています。家族の写真や作品も飾られ、安心して過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来ること」「出来ないこと」の把握に努めている。安全に配慮しながら食器洗いやおかずつき、包丁の取り扱い等行ってもらっている。また次第に車椅子や歩行器が必要なご利用者様が増えており、それを置く際、移動の妨げにならない様に配慮している。		